1 安全に関する注意事項

本誌〈取扱説明書〉は、ヒットエアー（衝撃緩和保護システム）付ジャケットを、安全かつ適切にご利用頂くために、必ずお読みください。また、いつでも読めるように、大切に保管（バイク内等）して下さい。

取扱説明書で使われるマークは、次の状況を意味します。

警告 **この表示を無視して誤った取扱いをすると人が死亡、又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

警告 1. ヒットエアー付ジャケットは、バイクに乗車の際に使用するもので、救命衣等、他の利用は出来ません。

警告 2. ヒットエアー付ジャケットは必ず、上衣として、サイズのあったものを着用して下さい。
レインウェア着用の際にも、レインウェアを着用した上に、ヒットエアーを着用して下さい。

警告 3. 使用済のカートリッジボンベを取り替える際は、モデル指定のサイズ（容量）のカートリッジボンベを使用し下さい。封板（底部/ネジ部先端）に穴が開いていないことを確認してご使用ください。

警告 4. ヒットエアー付ジャケット内蔵のパーツを分解しないで下さい。

注意 5. ヒットエアー付ジャケットを着用する場合は、下に着ている衣類の中に、突起物、鋭利な物は入れないで下さい、着用前には必ず取り外して下さい。
（例：ピン留めした名札、バッジ、ペン、ネクタイピン等）作動時及び、作動後にも気室（エアバッグ）を傷つけ、正常に膨らまない場合があります。

注意 6. ヒットエアー付ジャケット取扱時は、火気厳禁にして下さい。タバコ等が原因で、穴があいたり、破れたりした場合は使用できません。又、炭酸ガスボンベを内蔵しておりますので、使用時、保管時ともに40℃以下での使用に限ります。高温になると破裂の危険があります。

注意 7. ワンタッチリリース（コネクター）をはずすのを忘れてバイクから降りると、引っ張らた伸縮ワイヤーによってバイクが転倒する危険性がありますので、必ず、バイクに股がった状態でワンタッチリリース（コネクター）をはずして降車して下さい。

注意 8. 着用の前には、各部の破損などを自主点検してから着用して下さい。
お気づきの点等あれば、取扱店にご相談下さい。

8 お手入れ方法（クリーニングについて）

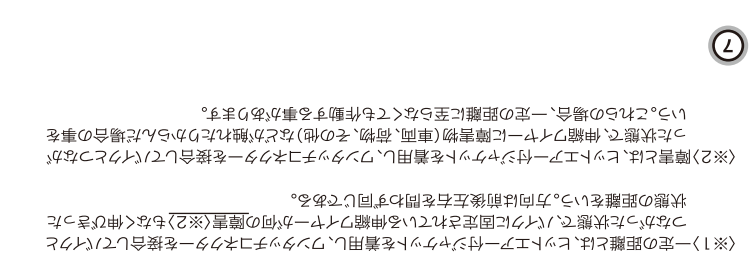
1. ヒットエアー付ジャケット、ベストは、ヒットエアーインナーシステム（衝撃緩和保護システム）が装着されたままの洗濯・クリーニングは出来ません。
2. ヒットエアーは水に浸けないでください。
3. ヒットエアー付ジャケット、ベストはヒットエアーインナーシステムとプロテクター（肩、肘、背中等）を取り外し、ウェアのみを洗濯表示に従い、洗濯・クリーニングして下さい。
4. ヒットエアーシステム表面（首、尻気室等）が汚れた場合
   ・濡れタオル等で汚れを拭き取るようにして下さい。
   ・ボンベを付けたままハンガーにかけ、お風呂場などで表面にシャワーで水をかけて汚れを落としてください。その場合、キーボックスに直接水をかけないでください。

9 保管方法

ヒットエアー付ジャケットを永く安心して使用するために、次のような所や条件下では保管しないで下さい。

1. 高温になる所（直射日光の当る場所、車中、ストーブの近くなど）
2. 雨漏りする場所
3. 蒸気のあたる場所
4. 湿気の多い場所
5. 他の物の下積み
6. ネズミなどの害のある場所
7. 子供の手の届く場所
8. 折り畳んだり、丸めたりしての保管（ハンガー掛けにして下さい）

2 概　要



ヒットエアー（衝撃緩和保護システム）付ジャケットは、バイク乗車の際、上衣として着用します。
転倒、衝突などによってライダーがバイクから一定の距離〈※1〉**離れた瞬間に、キーボックスに組み込まれたキーボックスが作動して、カートリッジボンベの炭酸ガスが各気室に送り込まれ、瞬間的に膨張するようになっています。その膨張した気室が、人体と外部の接触物の間に入り、衝撃を緩和する仕組となっています。このような特性を持って人体各部への損傷を少しでも軽減出来る事を目的としてやられたシステムです。**

「本製品は、着用していれば必ず安全である、又、安全を保証するというものではありません」

キーボックスは、簡単に抜けない仕組みになっており（4-3 キーボックス〈P12〉参照）走行時に予想される、ライダーのスタンディングなどの動作は、伸縮ワイヤーによって吸収され作動しないようになっています。

〈※1〉一定の距離とは、ヒットエアー付ジャケットを着用し、ワンタッチコネクターを接合していくなかったり状態で、いくつに固定されている伸縮ワイヤーが何の障害〈※2〉もなく伸びきった状態の距離をいう。方向は前後左右を問わず同じである。

〈※2〉障害とは、ヒットエアー付ジャケットを着用し、ワンタッチコネクターを接合していくなかったり状態で、伸縮ワイヤーに障害物（車両、荷物、その他）などが触れたりかからだ場合の事をいう。これらの場合、一定の距離に至らなくても作動する事があります。

7-2

9.エアーバッグ（気室）からエアーを抜きます（写真2）
気室からエアーを抜く作業を行います。突起物などの無い平坦な場所にヒットエアジャケットを広げて各気室部分を押さえにしてガスを抜きだしてください。丸めたり、畳んだりする行為はおやめください。内部部品に損傷を与える場合があります。根気よく、ほぼ完全にガスが抜けるまで行ってください。

注意
この作業が完全に行われない場合は各気室部分の収納がうまく出来なくなります。また、エアバッグの誤作動の恐れがあります。

写真9

10.各気室を収納してホルスターやマジックテープを留めます。（写真10）

写真10

※尻気室収納型の尻にフラスナックボタン（マジックテープ）はありません

次ページへ